ソニー

ネット経由でリモートエンコーディング 従来比80%オフの低料金強みに需要開拓

ソニーは2002年7月から、リモートで映像素材をエンコーディングできるサービスを開始した。人手を排し作業工程を機械化したことでエンコーディング時間は短縮され、サービス料金も同社比20%にまで値下げすることに成功した。さらに同社は、インターネット接続や動画ホスティングサービスを手がけることで、企業の動画配信支援をトータルにサポートしようとしている。

Company Profile

代表取締役社長兼COO：安藤国威
本社：〒141-0001
東京都品川区北品川6-7-35
URL：http://www.sony.co.jp

bit-drive

ソニーがインターネット接続とアプリケーションの両面から提供する、法人向けブロードバンド・ソリューション&サービスの総称。インターネット接続サービスでは、無線を使った上り/下り10MbpsのWLL高速無線接続サービスや、固定IPアドレス付きのADSL/SDSLサービスを提供。また、プラットホームサービスとして、動画をインターネットに流すために必要な撮影からエンコーディング、ストリーミング、ログ解析までをトータルに支援する「MediaStage」、コンテンツ販売や会員向けサービスのための課金システム「Harvest-Drive」などを提供している
URL：http://www.bit-drive.ne.jp

昨今、テレビ放送やCD、DVDなどのパッケージメディア向けに制作されてきたコンテンツを、インターネット配信に最適なデジタルデータの形式に変換するエンコーディングサービスが注目を集めている。コンテンツホルダーにとって映像素材のエンコーディングは、ブロードバンドを生かしたコンテンツ配信サービスを展開していくうえで必須の作業工程だからだ。

2002年7月、ソニーがサービス提供を開始したストリーミングサービス「MediaStage」は、これまで映像素材を格納したビデオテープやCD、DVDの人手を介した受け渡しが常識となっていたエンコーディング作業を、インターネット経由のリモート操作で行えるようにした。まさに、ブロードバンドかつ常時接続の環境であるがゆえに実現できた機能といえる。

映像配信を包括的に支援

MediaStageは、ソニーが提供する法人向けブロードバンド・ソリューション&サービス「bit-drive」を構成するサービスである。bit-driveは現在、インターネット接続サービスとブロードバンド支援サービスの2つで構成されている。MediaStageは後者のサービス分類に属し、コンテンツ制作からエンコーディング、配信にいたる映像配信をトータルにサポートしている。

ソニー・NACSブロードバンドサービスカンパニー・通信サービス事業部・コンテンツプラットフォーム部の川井啓亘担当部長

ターゲットとして見込んでいるのは、映像を制作しこれを販売することを生業としているテレビ局や映画会社などのコンテンツホルダー、そして商品のプロモーションや社員教育といった企業内コミュニケーションに映像配信を考えている企業だ。こうした企業に対して、ソニーは2001年7月から動画ホスティングサービスを提供してきたが、今回新たにMediaStageを加えたことでより包括的な支援体制を整えた格好だ。

並行して、bit-driveでは法人向けアクセスラインサービスも充実してきている。ソニーでは従来からFWA（Fixed Wireless Access）による準ミリ波・ミリ波を使用したビル間の高速無線インターネット接続サービス「ブロードウェイブ」、および下り8Mbps・固定グローバルIPアドレス付きのDSLインターネット接続サービス「ADSL 8M pro」などを提供してきたが、7月にはBフレッツ対応のFTTHインターネット接続サービス「ファイバーリンクpro」「ファイバーリンクpremium」を追加している。

また、ソニーではbit-driveの法人向けサービス拡充に向け、社内組織の体制強化も図っている。今年4月、ソニーグループ全体のネットワークサービス関連事業を統括する事業セクターとして、NACS（Network Application and Content Service Sector）を設立した。MediaStageは、このNACSブロードバンドサービスカンパニーがサービス開発・提供を担当している。

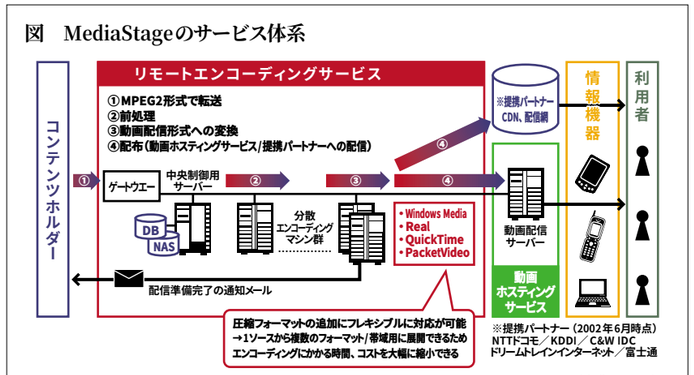
1分200円からの低価格設定

MediaStageの中身についてみていこう。

サービスは、コンテンツ制作、リモートエンコーディング、コンテンツデリバリー、動画ホスティングの4つに分かれている。主力は、7月にスタートした先述のリモートエンコーディングサービスと、提携パートナーのCDNや携帯電話網にコンテンツを送り届けるコンテンツデリバリープログラム、そして動画ホスティングである。

リモートエンコーディングは、ユーザーがエンコーディングしたい映像素材をMPEG2形式でデータセンターに送付し、Web画面でエンコーディングフォーマットや帯域を指定すると、あとは自動的にエンコーディングされるというもの。エンコーディングが完了すれば、配信準備完了のメールがユーザーに通知される。1つのソースから、複数のフォーマットや帯域に展開することもできる。さらに、エンコーディングされた動画ファイルを直接動画サーバーへ伝送し、配信できる状態にすることも可能だ。

図　MediaStageのサービス体系



（出典：ソニー）

ユーザーは、映像素材をビデオテープやCD、DVDに保存し、エンコーディングプロダクションに送り届ける時間と手間を大幅に削減することができる。ソニーとしても、メディアの受け渡しにかかる人員が不要になり、かつエンコーディングが必要な映像素材の選定をユーザー自身に委ね、作業工程そのものも機械化したことでサービス料金の低価格化を実現できたという。

エンコードフォーマットは、Windows Media、Real Player、QuickTimeに対応し、8月からPacketVideoも加える（**表1**）。エンコーディング料金は、初期費用3万円、5時間分の映像で6万円からとなっている（**表2**）。

NACSブロードバンドサービスカンパニー・通信サービス事業部・コンテンツプラットフォーム部の川井啓亘担当部長は、「従来から行ってきた映像素材をメディアでお預かりしてエンコーディングするプロセスを経ると、当社のサービスでは1分間あたり1000円程度かかっていた。これがリモートエンコーディングになると、1分